

閉校記念碑除幕



吉高高校歌流れる

念式典実行委員長である田中辰也同窓会長が挨拶に立ちました。

「きょうはさわやかな日となり、除幕式には最適の日となりました。明治43年5月に開学して以来、本年度で98年の歴史を積み重ねてきました。この坂道を登り、下って巣立っていった人たちは9900余名になります。地域の文化、産業に貢献され、なかには世界に羽ばたいて貢献された人たちもあります。この晴れやかな歴史を閉じることになります。この記念碑は真嶋哲雄先生をはじめ大勢のみなさんの協力できました。いま、改めて教育の素晴らしさを感じています。田中さんの挨拶は熱がこもっていて、同校を卒業されたすべての人たちを前に語っているような雰囲気と力強さがありました。」

挨拶が終わった途端、音楽が流れました。♪ 揚げば高し米山の 千古の雄姿天を衝く 望めば広しみこしじの……。

90数年にわたって歌い継がれてきた校歌です。ジーンとききました。

さて、文化祭。どなたが準備してくれたのでしょうか、同校の歴史を振り返ることのできるコーナーがあり、そこにひきつけられてしまいました。1階にある吉川高校の「博物館」と名づけた教室です。報道資料などがたくさん展示されていました。同校が全国で唯一の「酒を造る高校」となったからのマスコミ各紙の報道はすごい量になります。醸造科をとり上げた新聞のなかには「しんぶん赤旗」日曜版もありました。この記事のコピーは醸造科で造ったお酒とともに全国に発送されたことがあると聞いています。醸造科を取材した雑誌も多かったです。

ね。現代農業や教育雑誌の『エデュカス』にも写真がたくさん掲載されていました。なかには、私がよく知っている写真家・橋本紘二さんのものもあり、とても懐かしくなりました。

被災者支援改正法成立へ

上越市議会などの働きかけが実る

参院の災害対策特別委員会で、被災者生活再建支援法の改正案が全会一致で可決されました。9日には参院本会議で可決後、衆院でも可決される見通しとなりました。

同改正案ではこれまで住宅の解体や撤去などに限られていた支援金の使徒を住宅本体への支援にも向けられるようにしたほか、年齢年収要件撤廃などが盛り込まれました。また、注目されていた中越沖地震被災者などへも特例措置として、さかのぼって適用される内容となっています。

被災者生活再建支援法は阪神大震災を契機に1998年、議員立法で制定されましたが、住宅本体への支援や年齢・年収要件の撤廃などを求める声があがっていました。10月4日に終わった上越市の9月定例議会でも、被災者生活再建支援法の改正について2度にわたって意見書を全会一致で採択。年齢年収要件撤廃や中越沖地震被災者などへの遡及適用などを求めています。また、木浦市長も震災対策に関する私の一般質問に答えるなかで、政府への働きかけを表明し、山岸議長とともに上京、市議会の意見書の内容で要請活動をおこなってききました。こうした働きかけが今回、実を結びました。よかったです。(9日記)



写真はキチジョウソウ。

文化の薫り漂う体育館、今年も

吉川区の第3回芸能発表会が3日、吉川区体育館で行われました。この日は上天気でした。屋外のイベントへ人が流れ、いつもよりも観客数が少なかったように思います。でも、出演団体は特別出演の吉川中学校吹奏楽部の皆さんを入れて13団体、それぞれが持ち味を出し、日頃の練習の成果を十分発揮できた、いい発表会となりました。



今回の初出場は「オカリナアンサンブルうぐいす」です。おそろいの緑のジャケットと黒のズボンがともお似合いました。少し緊張感が漂っていたものの、うれしそうに腰を振りながら初の演奏を楽しみむ人もいて、いいムードでした。演奏は「千と千尋の神隠し」の主題歌・「いつも何度でも」からはじまり3曲、ラストは秋にふさわしく「もみじ」の二重奏でした。司

会者からは、「赤く色づいた山々が浮かびました。あつたかい演奏でしたね」とコメントがありました。私が来賓として参加したのは一昨年からです。今回を含め3回とも、はじめから終わりまで観させていただきました。毎回、いろいろな発見があります。今回は、踊りは舞踊であろうがレクダンスであろうが、指の使い方がうまい人の踊りはひと味違うと思えました。人差し指一本をゆっくり

4日は同体育館での文化展。押し花、竹細工、焼き物、菊花などの力作がたくさん出展されました。

作品のいくつかを写真に撮らせてもらいましたが、下の布ぞうりもそのひとつです。とても温かそうでした。懐かしい。

文化展は力作ぞろい

動かす、10本の指全体をさつと伸ばす。これだけでも、やわらかな色つぼさを出したり、情熱溢れるムードがつくれるんですね。もうひとつは、笑顔です。レクダンスを踊っているメンバーの私たちの笑顔が自然で、とてもいい雰囲気をかもしだしていました。



新年度予算などでの県交渉に参加

日本共産党新潟県委員会は11月6日、新年度予算などについて新潟県当局と交渉しました。交渉は県民の生活要望に基づき、主に道路関係、河川関係、港湾交通関係の各分野で行われましたが、今回は私も上越地区を代表して参加してきました。

私の役目は上越市民の要望を伝え、その実現のために努力することです。「みなし過疎都市」となっている上越市などの除雪体制強化のために、平常時での除雪費補助制度創設を国に働きかけること、柿崎区・大潟区・郷津海岸の海岸侵食対策の強化、佐渡汽船小木直江津航路存続のための県の支援強化などを求めました。

平常時での除雪費補助制度創設については、すでに山形、福島両県とも協力して国に要請を行っているとのことでしたが、私は地吹雪や山間地の降雪などで苦しむ市民の実態などを紹介し、さらに働きかけを強化していくよう求めました。もっと世論を高めていく必要がありますね。（写真の前列右奥が私）

